

2007年 3月13日

「セメント産業自主行動計画」目標策定について

太平洋セメント株式会社(社長: 鮫島章男)は、2002年に「持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)」のセメント産業部会が公表した「持続可能な発展のためのセメント産業自主対策(CSI)」に基づき、参加企業として「気候変動の防止」「排出物質の削減」の2つの優先課題につき目標を策定しました。

1. 策定の背景

2002年7月にWBCSDのCSIは、6つの優先課題について5年間の「自主行動計画(Agenda for Action)」を策定し、2005年までに環境データの測定・報告に関するプロトコル(手順書)やガイドラインの作成および主要業績評価指標(KPI)の定義を定め、2007年には参加各社が排出物質に関する削減目標を公表することを公約しました。

そこで当社は「自主行動計画」をグループ各社に展開するとの方針を立て、対象とする国内外のグループ会社からのデータ収集システムの確立し、2007年のKPI公表に向けて、まずCO₂排出量の削減目標策定に取り組み、引き続き大気汚染物質の排出マネジメントの目標を設定しました。

2. 当社グループの目標

1) CO₂排出削減目標

太平洋セメントグループのセメント製造における二酸化炭素(CO₂)排出の削減目標を、「2010年までに2000年比でネットCO₂排出原単位3%削減」とします。

ネットCO₂排出原単位=セメント1t当たりのCO₂総排出原単位からセメント1t当たり代替燃料由来のCO₂排出原単位を差し引いた値

対象範囲=国内7事業所、国内3SS、国内2鉱業所、国内関係会社6社、海外関係会社8社

2) 大気汚染物質(NO_x、SO_x、煤塵)の排出マネジメント

太平洋セメントグループの海外を含むすべてのセメント工場において、2010年までにキルンから排出する大気汚染物質の排出量を毎年モニタリングする体制を確立します。

対象範囲=国内7事業所、国内関係会社6社、海外関係会社7社

3. 目標達成の手段

1) CO₂排出量削減

ネットCO₂排出原単位の目標値は、07中期経営計画における国内設備投資によるCO₂削減効果及び海外工場の将来計画を基に定めたものです。削減目標を達成するための主な方策としては、省エネプロジェクトと代替原燃料使用量の増加であり、その効果割合は概ね1:2となります。

2) 大気汚染物質(NO_x、SO_x、煤塵)のモニタリング

モニタリングが徹底されていない一部の海外工場においては、連続測定装置を設置するか、あるいは第三者機関による定期測定を実施します。

なお、既にモニタリングを行なっている工場でも、その測定値の信頼性の向上を図ります。

4. 今後の方針

- 1) 2007年に当社のKPI実績を公表します。以降、毎年各KPI実績を公表し、これに合わせて、グループとしてのレビューを行ないます。
- 2) CO₂排出に関しては、報告する毎年の排出量排出原単位の実績について、国際的な第三者機関による保証を行ないます。これは、CSIの自主的な活動に対して、第三者による客観的な評価を受けるというもので、具体的には2005年にCSIが作成し、現在、欧州セメント協会（センビューロー）や米国セメント協会（PCA）などが使用している「CSI CO₂プロトコル」に従って当社がCO₂排出量を算出し、その算出データが確かな値であることを第三者が評価し確認するものです。
また、将来、需要動向や生産に関わる諸々の条件変化によっては、計画が大きく変更される可能性があるため、毎年、CO₂削減量を慎重に監視し、状況に変化のある場合には、あらためて方策の変更を行ないます。
- 3) 大気汚染物質の排出に関しては、まず、全工場で年1回以上のモニタリングを実施し、そのデータの信頼性を向上させます。今後、各工場における規制値や地域協定値を踏まえて、グループの排出目標を設定するための検討を行ないます。

＜本件に関するお問合せ先＞
太平洋セメント株式会社 IR 広報部
TEL 03-6226-9018